

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																							
札幌医学技術福祉歯科専門学校		昭和57年3月19日	澤田 和宏	〒064-0805 札幌市中央区南5条西11丁目1289-5 (電話) 011-513-2111																							
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人西野学園		昭和43年1月10日	前鼻 英蔵	〒063-0034 札幌市西区西野4条6丁目11-15 (電話) 011-661-6514																							
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
教育・社会福祉	専門課程	介護福祉士科		平成6年文部科学省告示第84号	-																						
学科の目的	介護福祉士科は、学校教育法並びに社会福祉士及び介護福祉士法に基づき、授業や演習、医療機関での実習を行い、介護福祉士として必要な実践能力及び専門的知識・技能を習得させるとともに、その徳性を養わせることを目的とする。																										
認定年月日	平成27年 2月25日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	2148時間	1090時間	572時間	456時間	-	-																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
80人		12人	0人	3人	21人	24人																					
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学習成績の評価は、定期試験(論文含む)、または演習、実習などの成績ならびに平素の学習活動全般から得られる評価資料(レポート等)に基づいて総合的に行う。科目の成績の総合評価は、100点法をもっておこなう。科目の評定は総合評価に基づいて平成28年度1年次からは秀・優・良・可・不可の5段階で行う。																						
長期休み	■学年始め: 4月 1日～ 4月 9日 ■夏季: 8月 1日～ 8月26日 ■冬季: 12月21日～ 1月14日 ■学年末: 3月17日～ 3月31日		卒業・進級条件		校長は、当該学年の履修すべき科目のすべてを修得し、学校納入金を完納した者に対して、進級を認める。また、当該学科所定の修業年限以上在学し、履修すべき科目のすべてを修得し、学校納入金を完納した者に対して、卒業を認める。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、及び三者面談の実施		課外活動		■課外活動の種類 学園祭、バスハイク 新入生歓迎会、球技大会、地域清掃 ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)、介護老人保健施設、障害者支援施設 他		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に係る平成29年5月1日時点の情報)																						
	■就職指導内容 担任、学科長及び学生サポートセンター(就職支援担当が常勤)と連携し指導を行う。本人の希望に沿うようコーディネートし、採用試験に備え、個別及び集団指導を実施している。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護福祉士国家資格</td> <td>①</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>視覚障害者移動介護従事者養成研修課程</td> <td>②</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>全身性障害者移動介護従事者養成研修課程</td> <td>②</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>札幌市防災協会普通救命講習</td> <td>②</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	介護福祉士国家資格	①	11人	11人	視覚障害者移動介護従事者養成研修課程	②	11人	11人	全身性障害者移動介護従事者養成研修課程	②	11人	11人	札幌市防災協会普通救命講習	②	11人	11人
	資格・検定名	種			受験者数	合格者数																					
	介護福祉士国家資格	①			11人	11人																					
視覚障害者移動介護従事者養成研修課程	②	11人	11人																								
全身性障害者移動介護従事者養成研修課程	②	11人	11人																								
札幌市防災協会普通救命講習	②	11人	11人																								
■卒業者数: 11人		■卒業者に占める就職者の割合: 100%																									
■就職希望者数: 11人		■就職率: 100%																									
■就職者数: 11人		■その他 ・進学者数: 0人																									
■就職率: 100%		(平成28年度卒業者に係る平成29年5月1日時点の情報)																									
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成28年4月1日時点において、在学者19名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者17名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の原因 「進路変更」「経済的事情」等 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・入学後5月上旬までに担任が学生全員と個別面談を行う。 ・担任はショートホームルームで出席確認を行い、欠席者には担任が電話連絡をして様子を確認する。 ・無断欠席の場合は、担任と個別面談を実施。更に保護者に状況を連絡する。 ・欠席理由に応じて、学生指導を行う。また、保護者との連携を強化する。		■中退率 10%																								

<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有</p> <p>1. 特別奨学生支援制度 仕事への志が高く、人物・成績ともに優秀な方に対して、「課題作文(800字程度)」の評価により本校の特別奨学生として適格であると認め、入学時の学納金のうち入学金金額「20万円」または一部「10万円」を免除する制度です。</p> <p>2. 子弟入学者支援制度 西野学園の各専門学校・専門課程在学学生または卒業生及び看護科2年課程(通信制)の在籍または修了者の親・子・兄弟・姉妹で、本校の入学試験に合格した方に対して、授業料の一部10万円を減免する制度です。</p> <p>3. 特別経済支援制度 修学意欲が高く成業の見込みがある方で、個人住民税所得割が非課税の世帯など経済的な理由により就学困難な事情のある方を対象に年1回20万円を支援する制度です。</p> <p>4. 西野学園学費支援制度 経済的な理由から授業料等学校納付金の納入が困難な状況の方で、学業成績が平均水準以上であり日常生活態度が良好な方に対して、年1回、第三期学校納付金額を上限として支援を行う制度です。</p> <p>5. 遠距離通学サポート制度 遠距離のため経済的に進学が困難な方(JR札幌駅起点に営業キロ100キロを超える通学定期券を購入する方で世帯全員の給与収入500万円以内の方)を対象として、通学に係る経済的な配慮を行う制度です。修業年限の期間を上限として、1か月又は3か月通学定期(特急含む)の半額を支援します。</p> <p>■専門実践教育訓練給付：給付対象 給付対象者なし。</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価：無</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>http://www.nishino-g.ac.jp/iga/kai/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学

生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

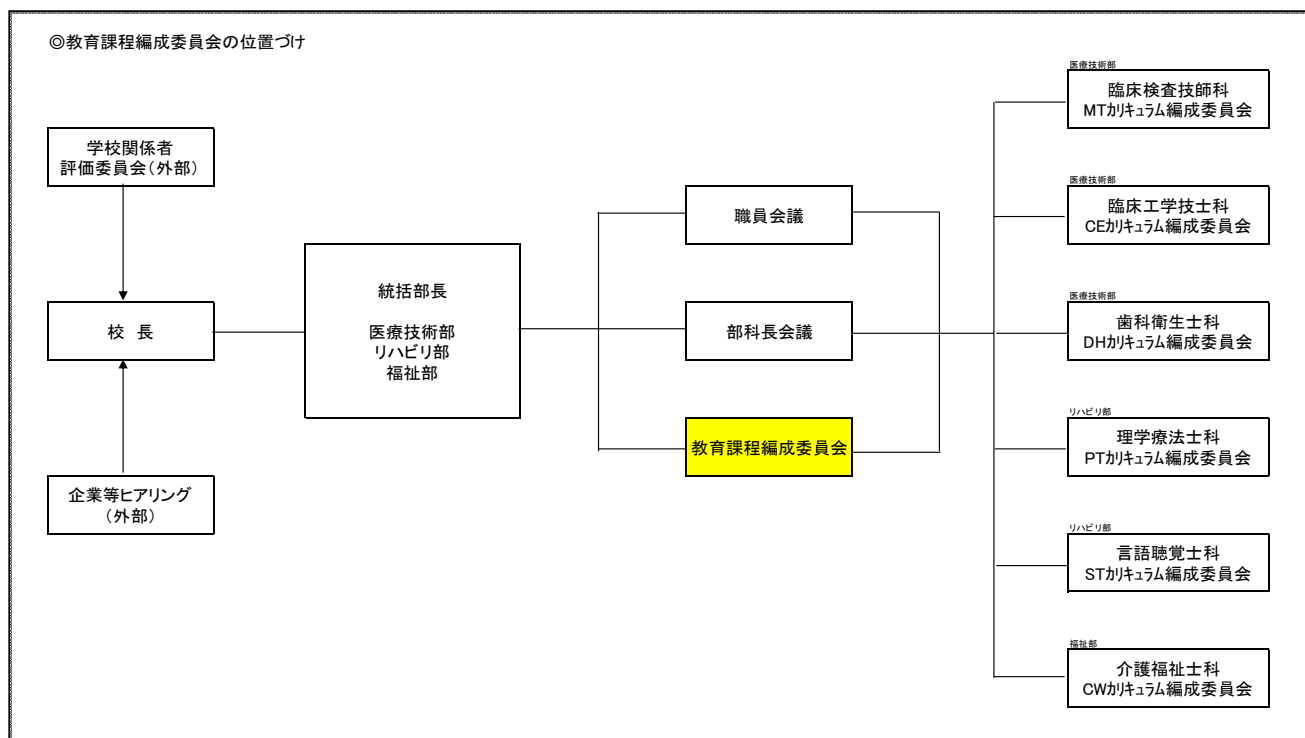
介護福祉士科では教育課程編成委員会を設置している。

関係法令の遵守、時代のニーズに合致した実践力の高い介護福祉士を養成することを目的とした教育課程の編成を行うため、教育課程編成委員会(委員)の提言内容等を踏まえ、関係施設等の連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法及び実習内容の方法の改善を図っていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

下記3点である。

- ① 各学科のカリキュラム編成委員会で教育課程の原案を決定する。
- ② 学校関係者評価委員会、企業ヒアリング等の意見を踏まえ原案の見直しを実施する。
- ③ 教育課程編成委員会の助言・指導のもと、実践的かつ専門的な教育課程の編成にあたる。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
松本 剛一	社会福祉法人ほくろう福祉会 理事長	平成28年8月1日～平成30年3月31日	①
菊池 道雄	社会福祉法人はるにれの里 人事部統括管理者 自閉症援助技術研究会 会長	平成28年8月1日～平成30年3月31日	②
羽山 政弘	社会福祉法人札幌慈啓会 介護部長	平成28年8月1日～平成30年3月31日	③
山本 孝之	札幌医学技術福祉歯科専門学校 福祉部 統括部長	平成28年8月1日～平成30年3月31日	学校
平野 啓介	札幌医学技術福祉歯科専門学校 福祉部 介護福祉士科 学科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日	学校
織田 なおみ	札幌医学技術福祉歯科専門学校 福祉部 介護福祉士科 主任	平成28年8月1日～平成30年3月31日	学校

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成29年8月9日(火) 18:00～20:00

第2回 平成30年2月1日(木) 18:00～20:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

施設見学や現場職員との意見交換の機会の設定など、教育と実践現場を繋ぐ役割としても尽力いただいている。専門職養成における重要な体験となる介護実習において、施設・事業所が求める介護福祉士像について要望や育成への協力を得ている。

介護人材(学生)確保に関する観点から、①教育内容(国家試験対策等の資格取得)の充実、科目「介護福祉総論」において内容変更の実施を行った。②広報・宣伝(対象者の拡大・若年層からの教育の必要性等)、③外国人留学生の動向注視等々、様々な意見をいただき、現在実施に向けた検討を重ねている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

厚生労働省通知に示された「教育内容」「ねらい」「教育に含むべき事項」を基本に据え、高齢者施設・機関との連携を深め、介護福祉士に必要な実践力を身に付ける。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

介護福祉士養成に於いて求められる目標は以下の点にまとめられる。

- ① 尊厳を支えるケアの実践を基盤に置き、相手の立場にたって共感できるコミュニケーション能力を身に付ける。
 - ② 利用者ひとりひとりの生活状況を適切にアセスメントし、潜在能力に着眼しつつ、自立支援に資するサービスを総合的・計画的に提供できる能力を身につける。その際、介護実践における根拠を説明する能力を涵養する。
 - ③ チームアプローチに関する理解を深め、他職種の役割を理解しつつ、チームに参画する能力を身につける。
 - ④ 介護に関連した社会保障制度、施策について基本的理解を身につける。
 - ⑤ 的確な記録能力を身につける。
 - ⑥ 職業倫理、専門職倫理の理解を深め、権利擁護の視点にたった実践ができる能力を涵養する。
- 以上の仕上がり像を念頭に置き、障害当事者、実習施設・機関等の企業と意見交換を活発に行い、教育の質の向上を目指す。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
介護実習Ⅰ	<p>異なった種別の2ヶ所での実習体験を通して、利用者理解を中心とし、これに併せたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、生活支援技術の確認等を行うことに重点を置くことを目的としている。</p>	<p>社会福祉法人札幌会 障害者支援施設 あゆ夢、株式会社ケーサポートグループ ホーム コケモモの家、社会福祉法人溪仁会 グループホーム 西円山の丘、社会福祉法人札幌親会 障害者支援施設 札幌北荘、社会福祉法人札幌親会 障がい者支援施設 さつきたそう ゆめくる、社会福祉法人札幌報恩会 指定障害者支援施設 札幌報恩学園、社会福祉法人札幌三和福祉会 指定障害者支援施設 三和荘、社会福祉法人愛敬園 障害福祉サービス事業 北愛館、社会福祉法人西平和会 老人居宅介護等事業 五天山園通所介護事業所、社会福祉法人秀寿会 信寿園デイサービスセンター、社会福祉法人札幌山の手リハビリセンター デイサービスセンター栄町、社会福祉法人札幌慈啓会 慈啓会デイサービスセンター、社会福祉法人英寿会 地域密着型介護老人福祉施設 かつこうの社等</p>
介護実習Ⅱ-1 介護実習Ⅱ-2	<p>1年次と2年次で分けて実施している。 介護過程の展開を中心に、1年次では生活支援技術を含めた基本的なかかわりや介護福祉士としての視点や姿勢で利用者理解および個別ケアのあり方を学び、2年次では、個別ケアを深めるために介護過程を主体的に展開し、実習施設・機関の役割やチームワークの在り方を学ぶことを目的としている。</p>	<p>社会福祉法人札幌慈啓会 特別養護老人ホーム札幌市稲寿園、社会福祉法人宏友会 特別養護老人ホーム手稲リハビリテーションセンター、社会福祉法人札幌慈啓会 特別養護老人ホーム慈啓会特別養護老人ホーム、社会福祉法人北海道ハビニス 特別養護老人ホーム和幸福園、社会福祉法人札幌恵友会 特別養護老人ホーム福寿園、社会福祉法人手稲ロータス会 特別養護老人ホーム手稲ロータス、社会福祉法人栄和会 特別養護老人ホーム厚利栄和荘、社会福祉法人西平和会 特別養護老人ホーム五天山園、社会福祉法人ほくろ福祉会 特別養護老人ホーム青葉のまち、社会福祉法人英寿会 地域密着型介護老人福祉施設 かつこうの社、医療法人双葉会 介護老人保健施設 マイトリーおたる、社会福祉法人恵友会 介護老人保健施設 茨戸アカシア、社会福祉法人手稲ロータス会 介護老人保健施設 手稲あんじゅ、社会福祉法人宮の沢福祉会 介護老人保健施設 びあケアさくら、社会福祉法人栄和会 介護老人保健施設 あつべつ、社会福祉法人社の会 介護老人保健施設 平和の社、医療法人北翔会 介護老人保健施設 豊翔の郷、社会福祉法人ノテ福祉会 介護老人保健施設 げんきのでる里、社会福祉法人札幌会 障害者支援施設 あゆ夢、社会福祉法人北海道ハビニス 障がい者支援施設 グリンハイム、社会福祉法人札幌山の手リハビリセンター 障がい者支援施設 山の手等</p>

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員研修規程に則り、企業等と連携して、専攻分野における実務に関する研修や指導力の修得・向上のための研修等を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務等に応じて受講させることを基本方針とする。

また、校長は計画的に受講させるために年間研修計画を策定し、①専攻分野における実務に関する研修等、あるいは②指導力の修得・向上のための研修等を受講させる。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・平成28年度初任者研修(平成29年4月4日・5日・6日)
 - 1日目 理事長講話、西野学園の歩み、専門学校の現状、事務関係、事務・服務規程関係
 - 2日目 学校教育および「わかる授業」への取り組み、授業技術の習得、授業の組立と基本原理
 - 3日目 授業指導案の作成、模擬授業および講評

- ・平成29年9月および10月 平成29年度介護福祉士実習指導者講習会(札幌市)

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・西野学園研修会
- ・平成28年度全体研修(平成29年1月12日・13日)
 - 全学科の教職員が集い、各校の学生指導もしくは学科独自の実践発表を聴講し、情報の共有化を図る機会である。
 - 1日目 1 経営方針、2 監事監査報告、3 研究・教育関連報告
 - 2日目 1 研究・教育関連報告1)平成28年3月 公益社団法人北海道社会福祉士会 実習指導者フォローアップ研修(札幌市)
- ・平成28年度公開授業(全教員対象)
 - 全教員が当該年度に1度公開授業および授業検討会を通して、個人の授業スキルアップを図っている。授業指導案、コマシラバス、確認テストまたは到達度評価表を用い授業展開をする。授業実践 力向上の貴重な機会である。
- ・平成29年5月20日(土) 次代のクリーンテクノロジーを提案 海渡産業50周年 記念展示会(札幌市)かたん介護技術(ボディメカニクス)～身体に負担をかけない介護方法
- ・平成29年6月1日(木) 教育エキスポ「変化の時代の大学経営」(札幌市)
- ・平成29年6月2日(金) 教育エキスポ「公開授業見学」(札幌市)
- ・平成29年7月21日(金) 平成29年度 文部科学大臣認定「職業実践課程」に係る研修会 (札幌市)
- ・平成29年8月29日(火) 北海道society5.0研究会(札幌市)
- ・平成29年9月29日(金) 平成29年度 日本介護福祉士養成施設協会 北海道ブロック教員研修会(札幌市)
- ・平成29年10月6日(金) 医療・介護分野のロボット展(札幌市)

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・平成29年11月 平成29年度介護福祉士実習指導者講習会(札幌市)

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・公開授業
- ・平成29年11月11日(土) 北海道介護福祉士会 介護の日トークイベント(札幌市)
- ・平成29年11月18日(土) 北海道福祉4団体 実践交流会「北海道の社会福祉の未来～職能団体の使命」(札幌市)
- ・平成30年1月15日(月)～16日(火) 全体研修
- ・平成30年2月7日(水)～2月8日(木) 第24回日本介護福祉教育学会(埼玉県)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき実施した自己点検評価結果について、学校関係者による評価を受けることにより自己点検結果の客観性・透明性を高める。

また、教育活動に関する意見交換を通し、学校と密接に関係する外部の方(関連業界等関係者、関係専門職団体、地域住民、卒業生等)の理解促進や、連携協力による学校運営の改善を図ることを基本方針とし、実践的な職業教育の実施を目指す。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1 理念・目標・育成人材は定められているか 2 社会のニーズ等を踏まえた学校の構想を抱いているか 3 理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか
(2)学校運営	4 目標等に沿った運営方針が策定されているか 5 運営組織は明確にされ、有効に機能しているか 6 情報システム等による業務の効率化が図られているか 7 学校内総合力を高めるための連携と協働体制の確立が図られているか 8 教育活動に関する情報公開が適切になされているか
(3)教育活動	9 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 10 学校行事の適切な企画、円滑な運営がなされているか 11 授業規律を確保し、指導体制の立て直しが図られているか 12 関連分野の企業、関連施設等、業界団体等の連携により、教育課程の作成、見直しが行われているか 13 成績評価、単位認定の基準は明確になっているか 14 授業評価の実施、評価体制があるか 15 職員の能力開発のための研修が行われているか 16 クラス担任と教科担任の連携を密にし、学生の実態にあった指導法の確立に努めているか
(4)学修成果	17 就職率の向上は図られているか 18 退学率の低減は図られているか 19 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか
(5)学生支援	20 学生相談に関する体制は整備されているか 21 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 22 保護者と適切に連携しているか 23 卒業生への支援体制はあるか 24 LHRなどを効果的に活用し、職業観の育成に努めているか 25 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 26 学生が自己理解、自己啓発、自己実現をするための方策が整備されているか
(6)教育環境	27 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか 28 図書室利用の活性化が図られているか 29 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	30 学生の募集は適正に行われているか 31 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
(8)財務	32 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか 33 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
(9)法令等の遵守	34 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 35 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10)社会貢献・地域貢献	36 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 37 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか
(11)国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会による評価の結果、学校による自己点検結果については全般的に一定の理解を得ることが出来たとと思われる。

しかし、卒業生や他職種との連携や地域における役割等については課題として提示されたため、今後は学校・学科経営計画策定やカリキュラム・授業内容の検討等の教育活動を見直す際の判断材料として意見を反映するよう取り組み、さらなる実践的な職業教育の実施を目指す。

なお、社会・地域貢献の一環として、今年度より学校祭を開催し地域住民との交流を図った。また、地域住民を招いて授業を実施する「地域交流授業」については委員からの要望が強かったため、今年度もさらに内容を深化させ実施予定である。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月11日現在

名前	所属	任期	種別
福井 誠一	元北海道札幌東高等学校 校長	1年	元校長
品川 雅明	札幌医科大学附属病院 検査部 主任技師	1年	卒業生
早瀬 健太郎	医療法人社団 祐川整形外科医院 リハビリテーション科 科長	1年	企業等委員
松本 剛一	社会福祉法人ほくろう福祉協会 理事長	1年	企業等委員
室橋 高男	札幌医科大学附属病院 臨床工学部・医療安全部 主任技師	1年	卒業生
藪 貴代美	北海道言語聴覚士会 副会長 (医療法人明日佳 札幌宮の沢脳神経外科病院)	1年	企業等委員
吉田 建志	医療法人社団 デンタルクリニック大通り 理事長	1年	企業等委員
松田 弘	札幌市中央区西第八町内会 会長	1年	地域住民代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ 平成29年10月)

URL: <http://www.nishino-g.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づき、企業等の関係者の理解を深めるとともに、さらなる連携・協力の推進に資するため、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供することを基本方針とする。
これにより、相互の情報交換が促され、学外実習、就職指導など企業等との連携による活動の充実や、産業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につながることを期待される。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ●学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針 ●校長名、所在地、連絡先等 ●学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●収容定員、在学学生数 ●カリキュラム(科目編成、授業時間数) ●進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業修了の認定基準等) ●学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ●卒業後の進路(主な就職先、就職率等)
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ●教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリア教育への取り組み状況 ●実習等の取り組み状況 ●就職支援等への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ●学校行事への取り組み状況 ●課外活動(サークル活動等)
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ●学生支援への取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ●学生納付金の取り扱い ●活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ●貸借対照表、収支計算書
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ●自己評価、学校関係者評価の結果 ●評価結果を踏まえた改善方策
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	<ul style="list-style-type: none"> ●学校運営の状況に関するその他の情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法 ホームページ

URL: <http://www.nishino-g.ac.jp>

授業科目等の概要

(教育社会福祉 専門課程 介護福祉士科) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間の理解Ⅰ	「人間」の理解を基礎として、人間として尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応のできるための基礎となる能力を養う	1前	30	○			○			○	
○			人間の理解Ⅱ	「人間関係とコミュニケーション」について学び介護実践のために必要な人間の理解や、他者との人間関係形成のためのコミュニケーション能力を養うための学習をする	2前	30	○			○			○	
○			社会の理解Ⅰ	生活支援や福祉の体系を理解し、現代社会における社会保障の役割や意義など制度全体の仕組みと、介護保険制度や障害者総合支援法の背景と目的、仕組みや権利擁護など制度の基本を学ぶ	1前	30	○			○			○	
○			社会の理解Ⅱ	「社会の理解Ⅰ」で学習した社会保障制度や介護保険、障害者総合支援法の背景や目的、仕組みについての理解を深めつつ、制度を取り巻く組織とその役割、今後の方向性や連携、協働について学習する	2前	30	○			○			○	
○			生活の理解Ⅰ	栄養の基本を理解し正しい食生活と健康との関係を理解するとともに高齢者、障害者の特徴を知り様々な状況に応じた食生活支援ができる知識と技術を習得する。	1前	30	○			○				○
○			生活の理解Ⅱ	住環境整備は、本人への自立、家族(介護者)の介護負担など、生活の質に大きな影響を与える。生活の基盤である「住まい」への理解を深め、広い視野で支援できる基本的知識を身につける。	1後	30	○			○				○
○			生活の理解Ⅲ	生活の要素となる事柄について理論や具体的データを提示し、「生活する」とは何かを考えていく。また生活から派生する問題について取り上げ、人々の暮らしの多様性を理解し、異なる価値観を尊重する態度を養う。	2後	30	○			○				○
○			保健体育	運動・スポーツを通して自己の健康保持・増進、体力の向上を目指す。練習、ゲームを通して他者とのコミュニケーションを図り、集団で運動・スポーツをすることの楽しさと意義を体験する。	1後	30				○	○			○
○			情報処理	パソコンで広く利用されている日本語ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作を演習を通して学び、情報処理に必要な技能や応用力を身につける。	1前	30				○	○			○
○			文章の表現Ⅰ	思考の幅を広げつつ、文章表現の基礎技術をマスターすることを目標とする。	1前	30	○			○				○
○			文章の表現Ⅱ	「文章の表現Ⅰ」で学んだ「事実」と「意見」の違い、漢字・表現等の基礎技術に、社会で通じる実践的な国語力・表現力を養い、ひとりよがりではない文章や話し方を身につけ、日頃から「考える」習慣を培う。	2前	30				○	○			○

○		介護の基本Ⅰ	介護福祉士の倫理綱領の重要性を認識し、介護福祉士に求められる「尊厳を支える介護」について、知識・技術・価値・倫理を身につけ、専門職としての職業観を養う	1通	120		○		○	○	○		
○		介護の基本Ⅱ	介護福祉士に求められている倫理観について考察し、自分の介護観を養う。対人援助職としての実践的コミュニケーション能力を身につける	2通	60		○		○		○		
○		コミュニケーション技術Ⅰ	介護技術の基礎知識や理論を実際に応用して、実践的能力を身につける。具体的事例や実践場面を想定したロールプレイ等を中心に展開する	1前	30		○		○		○		
○		コミュニケーション技術Ⅱ	介護を必要とする者の理解や援助関係、援助でコミュニケーションについて理解するとともに、介護業務にあたり利用者・家族、専門職とのコミュニケーションに必要な能力を身につける。	1後	30		○		○		○		
○		生活支援技術Ⅰ	介護技術は、単に介助の方法を学ぶだけではなく、その人が獲得してきた生活様式にも着目し支援することの大切さを学ぶ。観察のための視点と判断する力、支援する技術と一連の過程を学ぶ。	1通	90		○		○		○		
○		生活支援技術Ⅱ	1年次で学んだ基礎学習を活かし、介助の根拠を理解した上でさらに安定した介護技術を身につける。	2前	30		○		○			○	
○		生活支援技術Ⅲ-1	聴覚言語障害者や高齢者の障害に起因する諸問題について理解を深める。円滑な社会生活や家庭生活を営むことができるよう、障害の程度や特性に応じた適切な生活支援のあり方を考える	2前	30		○		○			○	
○		生活支援技術Ⅲ-2	運動機能障害の特性を十分に捉えた上で適切な介護技術の展開、その人らしい生活の営むことができるよう知識と技術を身につける	1後	30		○		○		○		
○		生活支援技術Ⅲ-3	知的障害、発達障害、精神障害について理解し、適切な生活支援技術、制度を活用した生活環境調整、専門職との協働・連携について学ぶ	1前	30		○		○		○		
○		生活支援技術Ⅲ-4	認知症のある人の生活障害を理解し、介護の原則やかかわり方、介護方法を学ぶ。介護実習の振り返りや事例を通して、生活支援の方法について具体的に考え、実践力を身につける	1後	30		○		○		○		
○		生活支援技術Ⅲ-5	外見から分かりにくい、内部障害のある人の生活のしづらさを理解し、それぞれの病態に応じて、どのような介護のあり方が望ましいのかを学ぶ	2後	30		○		○		○		
○		生活支援技術Ⅲ-6	重複障害、重症心身障害とその関連要素を理解し、適切な生活支援ができるよう学習する。	2前	30		○		○			○	
○		介護過程Ⅰ	介護過程の「全体像」「アセスメント」重点を置き、介護過程の展開に基づいた生活支援が、利用者の「尊厳を守るケア」「個別ケア」の実現を理解する。	1前	30		○		○		○		
○		介護過程Ⅱ	客観的な根拠に基づく介護実践の可能とアセスメントの基本的知識を身につけ、演習により介護過程展開の具体的方法を学習する。	1前	30		○		○			○	

○		介護過程Ⅲ	介護過程Ⅰ・Ⅱで学習した事柄を踏まえ、ケースの課題を明らかにし、個別援助計画の立案をする。チームアプローチにおける介護福祉士の役割を理解する。	1後	30		○		○	○								
○		介護過程Ⅳ	1年次に学んだ知識を基盤に、アセスメント及び計画立案、実施・評価の一連の介護過程について事例を用いて学習する。介護実習前・中・後と併せ実践的展開の一端を理解する	2前	30		○		○	○								
○		介護過程Ⅴ	介護過程の総まとめとして、利用者のアセスメントから評価に至るまでの意連の過程について、根拠に基づき実践できるよう、他科目で学習した知識や技術の統合を目的とし、事例を通して学ぶ	2後	30		○		○	○								
○		介護総合演習Ⅰ	介護実習の意義と目的、介護実習を行う施設(事業所)の概要について理解する。実習における基本的態度を身につけ、体験を通して、成果と課題を明確化し報告できる。	1通	90			○		○	○							
○		介護総合演習Ⅱ	1年次の介護実習における成果と課題を踏まえ、「求められる介護福祉士」を目指して自己目標と達成のための具体的な行動を明確に捉える。知識・技術・価値・倫理などを総合的に再確認し、実践に結びつける	2通	60			○		○	○							
○		介護実習Ⅰ	利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者理解を中心とし、利用者とのコミュニケーションの実践、他職種協働の実践、介護技術の確認を行うことに重点をおく	1前	120				○		○				○	○		
○		介護実習Ⅱ-1	利用者とのかかわりを通して適切なコミュニケーションをとりながら、生活課題やニーズに添った介護を提供するため、介護過程における情報収集を行う	1後	96				○		○				○	○		
○		介護実習Ⅱ-2	利用者のニーズや課題を明確にするため利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価や、これを踏まえた計画の修正という一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を融合して、具体的な介護サービス提供の基本と実践力を習得する	2前	240				○		○				○	○		
○		発達と老化の理解Ⅰ	高齢者の保健・福祉問題に対応するため、老化に伴う心身の変化に関する基礎知識を学ぶ。さまざまな年代の利用者の全体像を的確に捉えるため、発達から老化～ライフステージについて学ぶ	1前	30		○			○					○	○		
○		発達と老化の理解Ⅱ	成長・発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的な知識を習得する	2前	30		○			○					○			
○		認知症の理解Ⅰ	認知症の人の体験を知り、さらにこれまでの認知症ケアの歴史を振り返り、どのような視点をもってケアを想像していけばよいのか考える。	1前	30		○			○						○		
○		認知症の理解Ⅱ	これまで学んだ認知症に関する基礎的知識を基に、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた環境に配慮した介護の視点を習得する。	2前	30		○			○					○			
○		障害の理解Ⅰ	当事者の思いや生活の実態を踏まえながら障害の概念について学習する。心身に障害のある人々について、医学面、心理面、生活面の理解と介護面で注意することを学習する。	1後	30		○			○						○		
○		障害の理解Ⅱ	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた環境に配慮した介護の視点を習得する	2前	30		○			○					○			

○		こころとからだのしくみⅠ	心理学で扱われている内容や日常生活場面での例を紹介し、デモンストレーションを通して現象を体験する。	1前	30		○		○		○	
○		こころとからだのしくみⅡ	からだのしくみを中心に、各部位の構造や機能等の基本的な知識を学ぶ。更に人間の日常生活動作にこころやからだの状態がどのように関与するのか、根拠に基づき考察、アセスメント力を養う。	1通	60		○		○		○	○
○		こころとからだのしくみⅢ	「こころとからだのしくみⅡ」で学んだ知識を基に「観察ポイント」「気づき」「対応」について学び、実践に対応できる力を身につける。また困難事例の検証や社会背景から現状を読み取り理解を深める	2前	30		○		○		○	
○		医療的ケア	医療的ケアの位置づけを理解し、安全に医療的ケアを提供できる。利用者の生活を支えるために必要な行為であり、介護福祉士の倫理をもって学習を進める。	2通	90		○	△		○		○
○		視覚障害者移動介護従業者養成研修課程	視覚障害者を対象に外出する支援を行うことにより、地域における自立生活や社会参加を促すことを目的にサービス提供を行うものであることを理解し、基本知識や移動支援技術について学ぶ	2前	24			○		○		○
○		全身性障害者移動介護従業者養成研修課程	理ヨス屋の社会生活上必要不可欠な外出および余暇活動等の社会参加を保障する役割を安全に遂行できるよう、基本知識や移動支援技術について学ぶ	2前	18			○		○		○
○		介護福祉総論	卒業に向けてすべての科目を復習し、模擬試験を実施する。問題を解くだけではなく、時代の変化に伴う制度や施策などに関する近年の動向についても確認し、現場で役立つ知識を身につける	2後	60		○			○		○
○		接遇マナー	相手に「不快感を与えない言動・立ち居振る舞・態度・心配り等々」を講義、実習、演習を通して身につけ、活用していく。	1前	30			○		○		○
合計			47	科目	2148単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
【履修方法】 教育課程のすべての授業科目を履修しなければならない。この履修の認定は、当該科目の授業時間時数の80%以上の出席をもってする。また、履修した科目の評定が「可」以上のとき、その科目を修得したものとす。		1学年の学期区分	2期
【卒業要件】 本校所定の修業年限以上在学し、課程を修了した者に卒業証書を授与する。		1学期の授業期間	21週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。